

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第2四半期の来館者数は、3,835人で、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(5,540人)と比べ、2,691人、約30.8%の減であった。判定評価表の「1利用の承認等に関する業務」における「入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか」の項目について、指定管理者に対して求めるべき水準に達しているとはいえ、本来は減点対象と認められるが、新型コロナウイルスの変異株であるオミクロン株の感染急拡大による外出控えや水際対策強化に係る入国制限等に伴う外国人観光客の減少等の影響もあることから、不可抗力と認め、減点なしとする。また、今期については、メディア等への取材対応を積極的に行ったほか、ゲストを招いてのトークイベント等は全て満席となるなど、広く記念館の周知を図っており、前年同期の総来館者数と比較すると、34.6%、986人の増となっていることから、来館者確保のための取組努力も認められる。

月別来館者数:1,253人(7月)、1,348人(8月)、1,234人(9月)

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・ 通常の設定保守・点検等が適切に実施されている。
- ・ 館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。

● 資料等の維持管理

- ・ 施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・ 展示事業は、6月18日から9月11日まで「映画と音楽の素敵な出会いPart II」を開催し、名場面を彩ってきた映画音楽の歴史をパネルで紹介し、フィルムグラフィを辿る企画であった。展示方法では、館内にテーマ音楽の視聴コーナーを設けるなど、来館者が気軽に映画音楽に触れることができる工夫を凝らした内容となった。9月17日からは特別展「映画をデザインする 小津安二郎と市川崑の美学」がスタートしており、小津安二郎と市川崑という2人の映画作家を〈デザイン〉の視点から検証し、映画作家としての背景や作品の中に見られる美学的要素等を貴重な資料とともに紹介している。
- ・ 上映事業は、展示に関連した比較的新しい作品から優秀映画鑑賞推進事業等の古典作品まで幅広く多彩な作品のラインナップで上映を行った。夏のシネマセレクションとして上映した、ウクライナが舞台の『ひまわり』は連日満席となり、関連したトークイベントも即完売となるなど、非常に好評であった。タイムリーで話題性や魅力のある作品を上映することができれば、集客が見込めることが実証できたことから、引き続き、こうした事例を参考にして作品選択に努めて欲しい。

● 調査、研究及び情報提供

- ・ 特別展示の調査研究のため、国立映画アーカイブや市川崑記念室等を訪ね、情報収集を行っている。
- ・ 情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。

● 広報及び宣伝等

- ・ 市広報に展覧会や上映内容などの情報を欠かさず掲載しており、さらに、市役所本庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等に向けて利用促進の情報発信を行った。
- ・ 展示内容に合わせて、映画音楽をテーマとしたコンサート会場や7月末に閉館した岩波ホールにおいてチラシの配架を依頼し、記念館への集客に向けた広報及び宣伝等に努めた。

● その他の事業

- ・ チター奏者の内藤敏子氏による演奏会〈チターで奏でる映画音楽の調べ〉は満席での開催となり、よく知られた名曲の数々とそれが使われた映画に関するエピソードをお話いただくことで、参加者にとって満足度の高い事業となった。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- 例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
7月分:8月10日、8月分:9月13日、9月分:10月14日提出

● 事故・苦情対応

- ホームページに記載のあった『ひまわり』の終了時刻が20分早かったため、早めに退出しなければならなくなった旨の連絡が観覧者からあったため、時間入力に気を付けることでスタッフ内で共有を行った。
- 最終入館時刻の16時半以降に閉館の掲示を見て、チケット購入のため来館した方が帰ってしまったことがあることが判明したため、掲示の文言修正を行った。
- 『ひまわり』の完売についてクレームや残念がる声が多数寄せられたため、アンコール上映の機会を今後検討することとした。
- 購入済みチケットの日付変更について希望があったが、キャンセル・交換はできない旨を説明し、今後は購入時にきちんと伝えるよう徹底することとした。
- 新型コロナウイルス感染防止のため使用不可としている男子トイレの便器について、開放してもよいのではという意見があったため、10月上旬頃に開放することで対応を行った。
- その他、事故や苦情等があった際には、内部で情報共有を行い、速やかに対応策を検討し、対応している。

● その他

- キュレーターによる上映後の上映解説や展示解説を実施することにより、観覧者の満足度を高めるとともに、リピーターの獲得に努めている。
- 6月から募集を行っていたインターン1名の受け入れが決定した。次世代の映画文化の担い手に対し、映画・映像に関する知識を深める機会を提供し、その育成に寄与する取り組みを評価したい。
- 9月には、市地域共生課主催の『プリズン・サークル』上映会を実施した。

5 全体評価

- 今期は、様々な施設や機関、個人等を訪ね、特別展示に関する資料等の調査研究に取り組んでいる。このような取り組みで得た成果を企画事業に積極的に反映し、市民等の映画文化に関する知識を深める機会の提供に努めるとともに、調査研究を通して各施設等と活発な情報交換を行い、連携強化に努めてほしい。
- ゲストを迎えたトークイベント及び演奏会が盛況となったことは、日頃から記念館の積極的な広報・周知に努めていることや、アンケート等による来館者のニーズ把握の積み重ねが結果として実を結んだものと評価する。今後も館の魅力の発信、提供に努め、幅広い来館者の獲得に繋げて欲しい。
- 施設の維持管理などの業務に関しては、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

令和4年度第2四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第2四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%